未来医療研究人材養成拠点形成事業
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
[テーマＡ：メディカル・イノベーション推進人材の養成]

整理番号	Ａ－４

申請担当大学名（連携大学名）	東京医科歯科大学
事業名	ＩＱ・ＥＱ両者強化によるイノベーター育成 ～ＩＱ（高い知能・技能）とともにＥＱの強化を基点とした、医療現場の変革を可能にするイノベーターの育成とイノベーション文化の醸成～
事業責任者	大学院医歯学総合研究科長・医学部長　湯浅　保仁

事業の概要

【目的】
知識/技術に加え、(1)ＥＱを備え、(2)開発から応用までの全体像を十分理解し、基礎医学/臨床/医療サービス/医療政策分野において現場での変革につながる成果を出せる人材を養成する。
【取組内容】
・(1)の達成のために、ＥＱを低学年時から(ア)ワークショップ等で反復学習し定着させ、高学年時や卒業後に(イ)ワークショップと教室外取組よりなる Action learning にて習慣化する。
・(2)の達成のために、既存学部教育に加え(ウ)必須講義として医学/医療に変革を齎した発見/薬剤開発紹介、基礎臨床医学知識統合、レギュラトリーサイエンス、臨床試験プロトコールコンテスト/模擬倫理審査を、(エ)選択コースとして学生対象抄読会やリサーチセミナー、臨床試験管理部門・製薬/機器開発企業/医療行政当局審査部門での実地研修機会を創出する。
・(ア)～(エ)よりなる"イノベーター養成プログラム"を新設する。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：改善を要する点等

○学部学生の低学年から高学年にわたって、医学導入～レギュラトリーサイエンス、臨床開発部門等の講義、ローテーションが導入されている点は優れている。
○学部学生から大学院生までの一貫した教育プログラムが組まれており、効果が期待できる。
○学部学生全体を対象とし底上げを図るという発想は評価に値する。
○デザイン思考の概念を取り入れ、ＥＱ人材を開発するという趣旨は斬新であり、研究人材全体の意識改革という点で優れている。
○人材育成のプログラム内容が明解で、効果が期待できる。
○創造的思考力を中心としたワークショップを行うのは良い取組である。
○連携体制もよく構築されている。
●評価指標が、修了学生数だけでなく、大学院では関連する論文作成、特許取得等を含むことが望ましい。
●教育内容の核となるような大学独自の産学連携シーズがあるとなお良い。
●学内では十分ではないと思われる工学薬学など関連技術を持つ他領域との教育上の連携について具体案が必要である。
●医学部１年生から入学者の約１割をイノベータ養成プログラムに入れることになっているが、医学部のカリキュラムが過密な状態にさらにかなりの必修講義や実習が新たに組み込まれることも想定されることから、更なる検討が必要ではないか。もし本プログラムを動かすのであれば、入学者全員のカリキュラムを大幅に変更し、全員が履修する検討も必要ではないか。